救急科・集中治療科トピックス

あいち小児保健医療総合センターでは、平成28年2月1日に救急棟がオープンしました。東海3県（愛知･岐阜･三重）で初の「小児救命救急センター」の指定を受けるべく、救急科5名と集中治療科5名、あわせて10名の専従医を軸に体制を整えています。

救急科では、各科の医師と協力しながら直接来院･搬送された子どもたちに対応するのをはじめ、平成26年6月から開始した「お迎え搬送」にも力を入れています。重症の場合、救急搬送には危険が多く伴います。他の施設から転院依頼があった時、24時間体制で専門の医師や看護師を派遣し、必要な処置を行いつつ救急車やヘリコプターなどで搬送します。「お迎え搬送」は既に82件に対応し、当センターから他施設への送り搬送等も含めると計112件の出動がありました（平成28年1月13日現在）。なかに県内でできない治療などのため、東京都などへ長距離搬送した実績も5件あります。

集中治療科では、中部地区最大の小児ICU16床を活用し、濃密な看護体制や生命維持装置などで集学的治療を行います。平成27年秋には、全国でもまだ数か所しか認定されていない、「小児特定集中治療室管理料」の施設基準を満たしました。24時間体制で小児集中治療専門の医師が診療にあたり、各専門診療科やメディカルスタッフとの連携によるチーム医療を提供しています。平成26年度（ICU8床）時の実績で入室数247件、特に体外式膜型人工心肺装置（ECMO）11件の実績があり、今後さらに需要が見込まれます。感染症大流行の際のセイフティーネットも構築していく予定です。

県民のみなさまの期待に応えるべく、信頼される救急・集中治療体制をめざしていきます。

集中治療科 池山貴也、丹羽雄大、安達真也、今井一徳、和田翔

救急科 伊藤友弥、池山由紀、伊藤友理枝、水野光規、石川祥一朗

救急棟 屋上 ヘリポート

ER入口付近の装飾です

救急外来

外来では、救急棟のオープンにむけて、平成26年5月より全日2次救急医療を開始し、ER（救急･総合診療）の診察室･処置室等の整備はもちろんですが、これまでの各診療科の専門性の高い看護に加え、小児救急患者を看護する上で必要な、知識と技術を提供すべく準備してきました。

救急外来と一般外来との大きな違いとして、予約や、受け付け順ではなく、まずは看護師が緊急度･重症度を判断し、より早期に対応が必要な患者を医師の診察に繋げることで、待機中の状態の重篤化や急変を防ぐことを目的として院内トリアージを実施させていただきます。

救急外来に訪れる患者さんは、様々な理由で、それぞれに苦痛を持っています。そして御家族は、不安を持って受診されます。院内トリアージによって待ち時間が長くなる場合もあるとは思いますが、待っている間も看護師が観察させていただき、安全を第一に看護を提供していきます。

小児ＩＣＵ

あいち小児センター本館には従来8床のICU（集中治療室）があり、循環器、神経系、感染免疫科などの小児重症患者を受け入れてきました。新しく救急棟を開設し、3階に16床の小児ICUと屋上にヘリポートを備え、他施設からの搬送患者を受け入れる体制を整備しました。

小児ICUはオープンスペースに従来のICUとしてハイリスク手術の患者を収容し、個室スペースはプライバシーへの配慮やご家族の面会やお子様との時間を大切にすることが可能な環境に配慮しています。感染症専用の陰圧個室を充実し、安全な感染予防対策の実現を目指しています。小児ICU看護師は、集中治療科･救急科医師や臨床工学技師･理学療法士･薬剤師などと協力し、他施設から転院される重症患者や緊急入院される患者･家族の方々に安心して治療やケアを受けていただけるようチーム医療を推進していきます。

新体制となる小児ICUを今後ともよろしくお願いいたします。

小児ICUの入口の装飾です↑

3階の小児ICUは空のイメージです。小鳥たちがどんぐりくん、マロンちゃんと遊んでいます♪

小児ICUの様子です↑